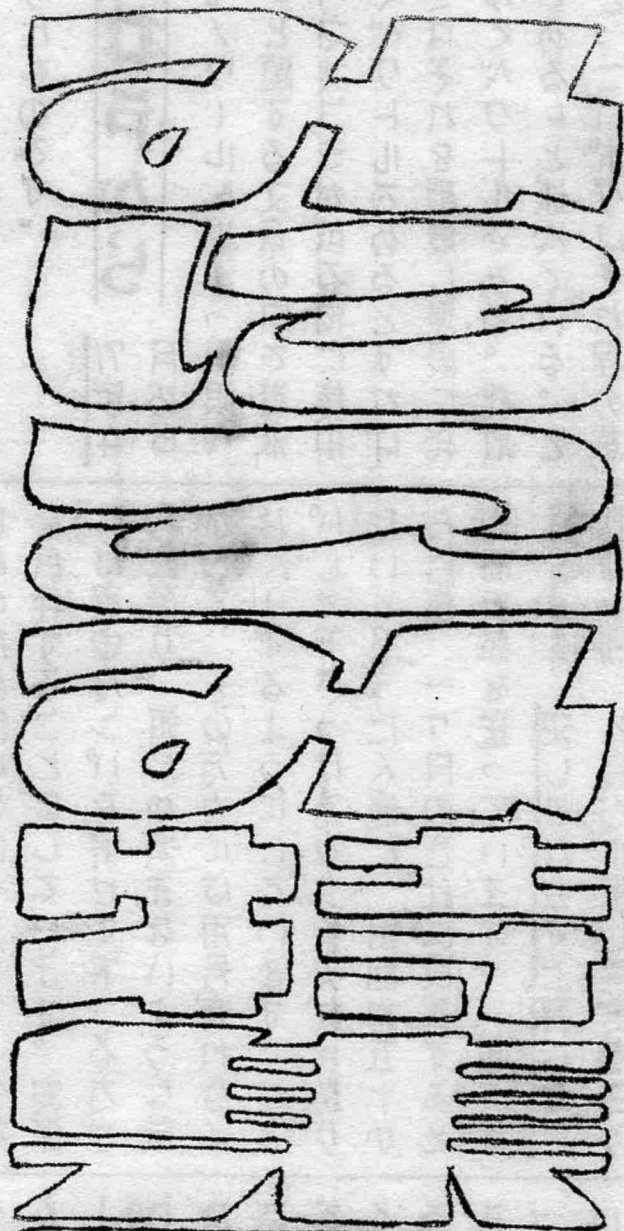


— エスパラントとは何か —



発行・自由連台大阪
大阪市旭高殿郵便局留
定価 150円 (送料別)
発行部数 500部 (売 300)
1972年6月10日

K.S

- (20) 自由市民 あるいは 田 (姫路) — マーシャル群島の人々等
- (19) 金沢反戦市民 17 (金沢) — 外堀はうめられた、
- (18) 大泉市民の集い ニュース 38 (東京) — ハイエブ審査会
- (17) 週刊ハタ 76 (福島) — それ以前の問題のために
- (16) イオム通信 127 (姫路) — かり切り 第一歩
- それとわれらのところざしは

自由連台 特別号

1972. 6. 10

★ 三二二三 特集



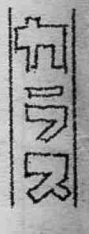
- (1) かめいから 特別号 (東京) — 今かぞの時……
- (2) ヤジ馬 最初の一発号 (大阪) — 自連との関係は
- (3) 三文評論 271 (長野) — 自由連台という組織
- (4) 飛翔 号外 (大阪) — 社長がやってくる
- (5) 垢 6 (東京) — 組員であることは
- (6) やけぼく 臨時号 (大阪) — 関係と連台ノート
- (7) ゆうとびあへの道 ひさしぶり特別号 (奈良) — 自由人
- (8) 破鎖 11 (大阪) — 私の人生回り道
- (9) 終いはじまる 号外 (京都) — 破境論序説1
- (10) イオム通信 128 (姫路) — 家について13
- (11) カラス 特別号 (宇都宮) — 請決起せよ
- (12) 青洞記 特別号 (岡山) — 小説夏の夜の計画
- (13) らっこ 0 (静岡) — 二人のアナキストの墓
- (14) きょうあろへん NO Y (京都) — 卵うい

は、〇世紀、無世紀をもつ。それこそ固有の、卓々である。すべての始まりの、中の静けさの中に、ぼくはその、終りの意味を考えた。



イオムってどんな意味とよく聞かれる。

二つ意味がある。そのひとつは「ちよ」とばかりというエスプレント語である。発行のイオム同盟はアナキズムに拠る詩人集団として、47年2月から58年までに、詩誌IOMを4年まで、戦争、平和、イオム同盟詩集のアンリロジエ3冊を出して、詩的活動を停止した。60年をまえに同盟の動きがそれぞれの分野にひろがる一方、制作エネルギーが弱まってきたせいでもある。この、イオム通信は、65年2月、米軍のベトナム戦争介入を契機として向井厚ひとりの責任で一号を出したにはじまる。以後、個人通信の性格のまま、現在月号だから平均20日に一回出したことになる。発行部数四〇〇から五〇〇。申込みは、自分の宛名記入の封筒に20円切手（プラスのり）をはって、自己紹介の手紙を送って下さい。



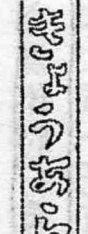
カラスはほとんどの部分において不定形。

ということは雑誌の「カラス」はカラスのなかに含まれてはいるが、きわめて独立したものとなっている。カラスを書く人、学生、労働者。カラスを読む人、学生（高校生も）、労働者、得体の知れない人々。カラスにおいてカラスは行動の一環となっていて、原稿がある程度集まれば切り。出来あがると道路・喫茶店・学校内で配布。料金は基本的にタダ。これは読んでもらうのではなく、読ませるために、一か所（一人）で終わらせることなく他の人にも廻してもらうため。カラスは、なにかやろう、ぼくらがぼくらの身体で直接的になにか存在するものをつくり出そう、その一部分。カラス、直接的行動を主とする、限りのない集団。（八嶋）



「自連」や「新日文」の愛読者です。日本には小説を書く人が少な過ぎます。作る時は一生懸命で、なかなかオモシロイのですが、できてしまうとナアングと思います。『青洞記』は本当は手紙の延長なのです。本

当はと書くと、小説は嘘のようですが、小説もそうなのです。しかし、知人の中には小説も手紙も書かない人もいます。目標は、たとえば新日文のように、人民に責任をとるという形なのですが、まだ若いし、そんなにきばったって頭に来るだけだ。と分ったので、当分は生活をといたりしてやるうと思っています。だから部数は気まぐれで、30から60です。毎月余分に作りますが、すぐ誰かに送ってしまいます。近くは号を出します。B5版平均20頁（長船）



カルートン（Bアジト）

紙。ガリガリ講師向井彦が、一時間練習したら誰でもこれくらいになる。と自慢している。本人は黄色いシャツを着て若ぶっている。

Libera Federa (自由連合) は全文エスペラント語で

自由連合は全文エスペラント語でかれ、全世界のエスペラント語でのおお対象としている。Libera Federaは、わ、たんに国際的なニュースおのせるのでなく、世界の平和運動の活動者の具体できな経験や共通の問題お扱う場とした。Libera Federaは、わ、今までの号出たが、活動が個人できなもので運動がひろがっていかない。毎月20部位海外に送っている。発行が順調にいけば国境をこえて具体できな課題が生まれてくると思う。エスペラントお学習している人は、Libera Federaの発行を手伝って下さい。（手塚）



週刊ハタ

成の為のきそなので、労働者・農民・インテリゲンチヤを主な対象にしている。公労働という化物のようなもの？ 団体についても、又、社会党に對しても決して無関心ではありません。又、現実には、人民の旗、前進、世界革命等の新聞もよませていた。き、ブル新聞も時々読者の声を通じて利用する事も忘れていません。最近では四月二九日、福島民友に「知事選に思う」が載りました。約二百部、配達が八十位です。配達には近所の人が二人でやり、配達と集金をおねて確実に日千円近くをあげてくれます。（宮沢と）

大泉市民の集いニュース 市民の集いは「朝霞反戦放送局」などを行なってきた。最近ではソニーやホンダなどハイエナ企業に對しての行動に取組んでいる。SONYよりはニュースの一部ではなくピラです。This One More というソニー側の言葉を逆手にとったユニークなピラ。

金沢反戦市民 金沢反戦市民は金沢市平連の中心メンバーたちがつくっている。最近では内灘や金沢市内の野町など地蔵に根ざした運動に取組んでいる。聞くところによれば近く解体し、新しい金沢平連を形成するとか。また、富山や福井などとの交流も活発になっている。6ページ参加は連絡のいきちがいからです。

自由連合 活動が市民向けに毎月約三千枚作っている。さばききれず余った各号の残部が参加。尚、五百に不足したので、経路行動の機関紙「虫」が一部まじっている。

次頁編集室へ付記 田嶋子の諸論文、7号1稿社の表組構造、36号1交通事件と時刻表、交通結社の形態、38号1手書き文字の可能性、一筆の思想と練習の思想、一筆は、ミニコミ論として読めるものです。是非参照して下さい。

②技術的に見にくいものが多。こちらで複写増刷の際に汚してしまつたものも一部あるが、製版へがリキリなど印刷に、もっと心遣いがほしい。IOMは4月号参照。

③片桐エズル、月刊かわら版、詩の平連、遊撃、金ヶ崎救護会、救護ニュース、下条かおる、おやまああ、あまがが判型、綿切等の関係から、残念ながら参加できません。

④この特別号の製作には、澤田順平、なんでも印刷所、久保利明、やじ馬、西氏をはじめ多くの人が参加しました。へとなるはずですが、お詫言ひします。

⑤発行が大層に遅れたことを深くお詫言ひします。（KH）

編集室

のつとりとやりとり

蛇足的ミニコミ論 黒川 遼

があるのか。

逆側させる志向

二〇ものミニコミを前にして、正直なところよくもこれだけ集まったものだと思き果れている。勿論、自連読者のおそらく百人以上の人がミニコミなり機関紙なりを出していることから考えると、集まりは良かったとは言えないかも知れない。しかも、一部を除いて、顔みしりの仲間うちのものという感もある。もっと破天荒で奇抜なシツチャカメツチャカなものがあるだろうのに、ここに集まっているのは、いわばおとなしく常識的なものばかりのようだ。

ミニコミという、マスコミのつけた呼び名を、ぼくらは全く違った意味で、あまり意識はせずに一使ってきた。マスコミの補完物としてではない。また、たとえば自連がマズ化（必ずしもマズコミ化ではない）して朝日新聞にも負けぬ情報量その他を有することによって、ぼくらのミニコミイションを獲得しようとも思わない。花田映子の言葉を借りるなら「マズコミの追求する交通を逆側させる」とする志向は、それがぼくらのミニコミではなかったらうか。たとえば「手づくり」ということの意味は、手工業的作業それ自体というよりも、このミニコミイションのあり方にこそあるのだと思う。

ミニコミイム

ミニコミに定義はない。あるのは、せいぜい「マズコミの与えてくれた、少数部誌紙」くらいのも

のだろう。以前、竹内好は、ミニコミをマスコミと対比させ、民衆のメディアにと主張したそうだが、「アワーコミュニケーション」すらTVコマーションの中の言葉となってしまうという今となっては、それも遠い昔話のようなものだ。

1972年

ミニコミイムというものがあつて、今もその余震は続いているらしい。その中でもはやされたのは、マズコミと同じ土壌に、しかもはるかに発行数の少ないものだけだった。ブームの先駆けをなしていくつかの試みと異なり、それらはブームにのっかって部数を増大させた。ミニコミなどという言葉が示すように、そこで問題とされているのは、単に量の大小ではない。

そうしたブームと無縁だったミニコミも、ブームに吞まれてしまったのだらうか。今やマズコミの補完物でないようなミニコミはないとまで言われている。そんな時自連特別号としてミニコミ集をつくることに、一体どれほどの意味

ミニコミの、そうしたミニコミの殆んどが、直接購読制をとっている（この場合、購読にはあまり意味がない）というところは、たとえば、表現在、編集者・発行者・読者というルートが、表現在、読者という関係に変わるといふことだ。

個人紙の特徴

そのことは、個人紙の場合、一層はつきりしている。勿論、個人紙と一口に言っても内容や目的はそれぞれ異なる。共通の問題への意見（告

白曲連合 雑誌 別号

自由連合を

白的なもの、報道的なもの、アピールのなもの、自己周辺にある問題の提起や報告、人生論思想論その他、創作、ビラ的なもの、など。そして実際は、これらが混在し、その比率によって各々の特徴をもちつつ、しかし、どれも個人紙だ。

たとえはばくは「やけぼく」を出している。内容は、へ理屈あり泣き言あり……の支離滅裂だが、はつきりしているのは、これはぼくの生活の一部であり、ぼくに從属しているといふことだ。同じ「やけぼく」であっても、「自連」と「やけぼく」とでは全然ちがう（内容のことではない）。「自連」の編集室と「やけぼく」を関連させようと何度か試みたがうまくいかなかった。それはそのちがいに気づいていなかったせいでもある。

「やけぼく」の読者Aからぼくに手紙がくるとしよう。「やけぼく」を中心にみるなら読者からの反響だ。だが、Aとぼくとの関係はぼく自身からみれば手紙のやりとりなのだ。つまり、読み手は書き手でもあるということだ。そこにミニコミの意味——マズコミの追求する交通を逆側させる——がある。（前項に言う「振り幅」の中で、より手紙に近い「やけぼく」はやりとりを求め、「自連」はのっとり——書き手へと至る乗っ取り手——を求めている。やりとりとのっとりとの違いは、ぼく自身で言えば、杉原の「やけぼく」と「自連」の黒川の違い）。

自由連合を

とするならば、ミニコミの意味は、ぼくらの求める新しい共同性と深く関っている。読み手・買手手求めない閉鎖性がミニコミの「交通質」を保障するように、ぼくらの求める共同性の内からではなく、あくまでも特殊な閉鎖性から導き出して来るより他にはないのではないか。（特定の「やけぼく」読者に対してすら、ぼくが「自連」の症状・オナニーと言ってきたのも、レトリックでなくこの閉鎖性のことなのだ）。

このまま話を進めれば、拡散する一方なので元に戻そう。ここに集まったミニコミに共通する「傾向」とは、やはり「マズコミの追求する交通を逆側させる志向」をもっていることだろう。その意識の有無に関らず、また「反マズコミ」どうこうでなく、自分自身にひきつけたいところを発行している、しよとしていえる。さて、それらのミニコミを集めた自連特別号、ちがってなさず済むこの状況に付しては、このことができるだらうか。紙面上に「自由連合」を見現することはできなかったようだが、それでも「自由連合」の契機となりうるか。すべてはこれからだ。（前頁の最後に「付記」あり。▽※）